

歴代川島甚兵衛の情熱がやどる

# 織物のための屏風絵



綴織屏風原画「花車」阿部春峰 筆(1921頃・部分)

2022年7月20日(水)  
～2023年6月2日(金)

新型コロナウイルス感染拡大防止にご協力をお願いいたします。

状況の変化により、開館日時等を変更する可能性があります。詳しくはホームページをご覧ください。

## 川島織物文化館

開館時間 = 10:00 - 16:30 (入館は16時まで)  
休館日 = 土・日・祝日/夏期・年末年始

入館料 = 無料  
見学ご予約 = 見学は事前にご予約が必要です  
TEL 075-741-4323

〒601-1192 京都市左京区静市市原町265  
<https://www.kawashimaseikon.co.jp/bunkakan/>





明治維新後に国内で普及し始めた洋風スタイルの生活様式に早々と着眼し、洋風建築の室内装飾織物を手掛け始めた二代川島甚兵衛。窓掛(カーテン)や壁張、椅子張や卓被(たくひ・テーブルクロス)など内装の必需品のみならず、美術工芸織物と称し、織物の額や壁掛、パネルや衝立という調度品の製造にも尽力しました。

中でも明治中期から見られる屏風のスタイルは、椅子の生活様式に合わせ、画面を腰高の位置に据えたものでした。既に刺繍や天鷲絨友禅(ビロードゆうぜん)を施した屏風が商品として輸出されていた時代ですが、当社は明治後期から独自の織技法を用いた屏風を作るため、これに適した図案の開発にも力を注ぎ、豪華な別品を織り出し、昭和初期まで特注品として製作していました。

今回の展示では、海外の博覧会で評価を得、宮内省にお買い上げ頂いた屏風や、海外への贈呈品などに用いられた屏風の原画や織下絵など、収蔵庫に眠る製作資料をご紹介します。日本画家が描いた工芸デザインの美しい構成や気品あふれる図案の数々をお楽しみ下さい。

①

## 歴代甚兵衛の情熱がやどる 織物のための屏風絵



- ① 両面綴織屏風原画「百菊」  
川北霞峰筆(1910頃)
- ② 綴織屏風原画「扇面散し」  
澤部清五郎筆(1926頃)
- ③ 綴織屏風原画「牡丹」  
川北霞峰筆(1922頃)  
(いずれも部分)

作品は展示替により内容が異なる場合がございます。(展示内容についてはお問合せ下さい)



③

同時開催中

スタッフが展示したかったアレコレ

うちの玉手箱

～2022年8月31日(水)



明治の世界へタイムスリップ

写真で楽しむ  
時間旅行

～2022年11月18日(金)



昭和のはじめを駆け抜けた

どっておきの一着

～2023年1月31日(火)



## 川島織物文化館

KAWASHIMA TEXTILE MUSEUM

〒601-1192 京都市左京区静海市原町 265

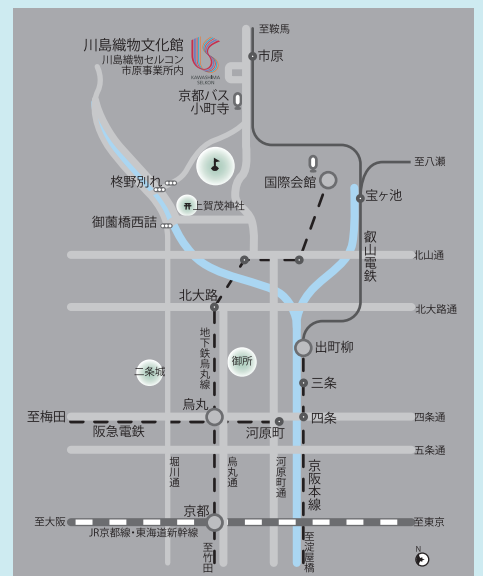
TEL : 075-741-4120

### ■ アクセス

- 電車・バス
  - ・京都市営地下鉄「国際会館駅」より  
京都バス(50/52系統)「小町寺」下車 徒歩約5分
  - ・叡山電車「市原駅」下車 徒歩約7分
- お車
  - ・京都市営地下鉄「国際会館駅」より 約15分
  - ・京阪電車「出町柳駅」より 約25分
  - ・京都駅より 約40分
  - ・名神高速道路「京都東IC」「京都南IC」より約60分

見学は事前にご予約が必要です TEL : 075-741-4323

<https://www.kawashimaselkon.co.jp/bunkakan/>



川島織物文化館は、1843(天保14)年創業のファブリックメーカー、株式会社川島織物セルコンが運営する、国内最古の企業博物館「川島織物参考館」(1889(明治22)年創設)をルーツとする施設です。

株式会社川島織物セルコン

2022.027